

コース名		科目名			対象学年		
臨床医学		画像診断			4		
開講学期		科目責任者		副責任者			
1 学期		玉田 勉		加藤 勝也			
目的							
医療の現場、特にさまざまな疾病の診断において不可欠である画像診断学（画像診断機器、画像診断法、画像診断の適応、診断の手順、治療効果や予後の推定）について理解すること。							
授業到達目標							
1. 単純および各種造影エックス線検査、超音波断層検査、核医学検査、CT 検査、MRI 検査などの各種画像診断法の原理を説明できる。 2. 各種画像診断法の特徴を知り、その長所と短所を説明できる。 3. 各種画像診断法の必要性・適応を正しく解釈し説明できる。 4. 各々の病態、疾患に対する画像検査法を適切に選択し、その検査計画を立てることができる。 5. 各々の臨床画像診断法による画像について詳細に読影し、正確に診断を進めることができる。 6. 各々の疾患について各種画像を総合的に読影し、その治療法を考える上で参考にすることができる。 7. 造影剤の副作用とその対策について説明できる。 8. インターベンショナルラジオロジーの手技と適応について説明できる。 9. インターベンショナルラジオロジーの安全性と合併症について説明できる。 10. 病態および臨床症状から適切な診断方法を選択し、診断を行い治療方針の決定に役立てる事が出来る。							
授業計画							
回数	月日	曜日	時限	区分	担当者	所属	授業内容
1	4/ 2	火	6	講義	藤原寛	総放	単純および造影エックス線画像診断と造影剤
2	4/ 3	水	3	講義	福倉	放診	MRI の原理と臨床
3	4/ 3	水	4	講義	山本亮	放診	CT の原理と臨床
4	4/ 9	火	3	講義	金澤	総放	胸部領域の画像診断：総論
5	4/ 9	火	4	講義	曾根	放核	核医学の原理
6	4/18	木	5	講義	坪井有	総放	胸部領域の画像診断：びまん性疾患
7	4/18	木	6	講義	坪井有	総放	胸部領域の画像診断：感染症
8	4/19	金	3	講義	福倉	放診	PET の臨床
9	4/23	火	1	講義	加藤勝	総放	胸部領域の画像診断：腫瘍（単純エックス線）
10	4/23	火	2	講義	加藤勝	総放	胸部領域の画像診断：腫瘍（CT）
11	4/26	金	5	講義	林田	放診	脳血管障害の画像診断
12	4/26	金	6	講義	今村	検査診断 (内・超)	超音波断層診断の原理と臨床
13	5/ 1	水	3	講義	外園	放診	消化管の画像診断
14	5/ 1	水	4	講義	福永健	放診	頭頸部の画像診断
15	5/13	月	3	講義	林田	放診	脳腫瘍の画像診断
16	5/13	月	4	講義	神吉	放診	肝・胆・膵の画像診断：膵疾患
17	5/17	金	3	講義	中島一	総外	乳腺の画像診断、マンモグラフィと MRI
18	5/17	金	4	講義	中島一	総外	乳腺の画像診断、乳房超音波検査とインターベンション
19	5/21	火	1	講義	玉田勉	放診	泌尿器・生殖器の画像診断：総論
20	5/21	火	2	講義	玉田勉	放診	泌尿器・生殖器の画像診断：男性生殖器

21	5/28	火	1	講義	玉田勉	放診	泌尿器・生殖器の画像診断：女性生殖器
22	5/28	火	2	講義	福倉	放診	副腎・後腹膜
23	5/31	金	3	講義	神吉	放診	肝・胆・膵の画像診断：画像検査法と肝腫瘍性病変
24	5/31	金	4	講義	神吉	放診	肝・胆・膵の画像診断：びまん性肝疾患と胆道疾患
25	6/ 3	月	3	講義	福倉	放診	核医学の臨床
26	6/ 3	月	4	講義	曾根	放核	RI 内用療法
27	6/ 6	木	2	講義	林田	放診	頭部外傷の画像診断
28	6/ 6	木	3	講義	林田	放診	心大血管・小児の画像診断
29	6/10	月	5	講義	檜垣	放診	骨・関節・軟部の画像診断（総論）
30	6/10	月	6	講義	檜垣	放診	骨・関節・軟部の画像診断（各論）
31	6/13	木	2	講義	檜垣	放診	脊椎・脊髄の画像診断
32	6/13	木	3	講義	藤原寛	総放	インターベンショナルラジオロジー：非血管
33	6/20	木	4	講義	山本亮	放診	インターベンショナルラジオロジー：血管
評価方法							
[期末試験]90%（授業全般にわたっての理解をマークシート方式または記述式の試験により確認する。）							
[出席状況（受講態度）]10%（評価に出席状況を考慮する（全出席：+10点，1回休：+7点，2回休：+5点，3回以上休：0点））							
[評価方法]多肢選択試験、論述・記述試験、出席・受講態度評価							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて							
（特になし）							
教科書							
配布資料							
参考書							
ISBN-9784260028806, 医学生・研修医のための画像診断リファレンス, 山下康行著, 医学書院, 2018							
ISBN-9784307203883, 乳癌診療ガイドライン 2 疫学・診断編, 日本乳癌学会編, 金原出版, 2018							
ISBN-9784260019651, マンモグラフィガイドライン, 日本医学放射線学会, 日本放射線技術学会編集, 医学書院, 2014							
ISBN-9784524269174, 乳房超音波診断ガイドライン, 日本乳腺甲状腺超音波医学会編集, 南江堂, 2014							
準備学習（予習・復習等）							
予習：講義資料により講義内容を事前に確認しておくこと。可能であれば参考書の該当部分を通読しておくこと。							
復習：講義内容について各自ノートや配布資料を使って理解を高めておくこと。							
予習・復習ともに1時間程度の学習を要する。							
講義についての注意事項							
画像診断は臨床医療において必要不可欠なものとなっており，将来どの臨床科に進んでも役立つものであるから基礎を十分身につけてほしい。							
また，正常の画像解剖を理解しておくことが，異常（疾患）を見極める上で最も重要となるので画像解剖学を十分復習しておいてもらいたい。							
昨年度からの変更点・改善項目							
副腎・後腹膜の講義を追加した。							
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連について							
この科目は、主としてコンピテンス・コンピテンシーの「Ⅲ. 医学と関連領域の知識」の「1. 人体各器官の正常な構造を説明することができる」、「2. 全身におよぶ生理的変化や構造の異常を病因や病態と合わせて説明することができる」と「3. 病態から診断方法を説明することができる」の達成に向けて設定されている。また、本科目の後に学ぶ症候論や臨床病態論の他、臨床実習開始のために必要な医学知識を習得し臨床医科学を理解する。							
ナンバリング							
DLRA409							